

平成 27 年 02 月 23 日

前立腺癌の放射線治療をお受けになった患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕 前立腺癌 3 次元治療において局所遮蔽を併用した線量増加の研究

〔研究機関〕 山形大学医学部附属病院 放射線治療科

〔研究責任者〕 根本建二（放射線治療科）

〔研究の目的〕

前立腺癌の放射線治療では従来 70Gy 程度の局所線量で治療されてきましたが、80Gy 前後に線量増加することで生物学的再発率が改善することが複数の研究から明らかになっています。しかし従来の 3 次元放射線治療では同時に直腸や膀胱といった周囲正常組織への線量も増加してしまうために、副作用も増加することが問題となってきました。

これに対して強度変調放射線治療 (IMRT) を用いて線量分布に凹みをつくることで、副作用を増やさずに、治療効果を高めることが可能となりました。しかし IMRT はどの医療機関でも可能な治療ではなく、治療開始までの待ち時間も長くなってしまふことから、誰もがどこでも簡単に選ぶことができる治療選択肢ではないのが現状です。

そこで、IMRT が選択できない場合には、従来からの 3 次元放射線治療において局所遮蔽を用いることで、周囲正常臓器の被爆線量を低減しながら、腫瘍線量を 80Gy 近くまで増加した放射線治療を行っています。

本研究では、これまでに行ってきた上記放射線治療によって、実際に副作用を低減しながら、放射線治療の有効性を高めることができているのかを評価することを目的としています。

〔研究の対象〕

山形大学医学部附属病院と日本海総合病院、置賜総合病院と鶴岡庄内病院で前立腺癌の放射線治療を受けられた患者さんを対象といたします。

利用する情報は、年齢、性別、病気、その進展程度、行われた放射線治療とその効果、併用された治療、副作用、予後、治療施設になります。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[データを提供したくない場合]

ご自身の情報が研究に用いられることを躊躇される場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。解析対象から外して、研究には使用いたしません。

[問い合わせ先]

〒990-9585 山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号
山形大学医学部放射線腫瘍学講座 根本建二
TEL 023-628-5386 FAX 023-628-5389